

# アグリ筑西

## 2019 1月号



あけましておめでとうございます。  
本年もアグリ筑西をよろしく願いたします。

県西農林事務所 経営・普及部門  
(筑西地域農業改良普及センター) 発行  
Tel : 0296(24)9206 Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！→

### JA北つくばいちご部会では基礎GAPに取り組んでいます！

12月4日に、JA北つくばいちご部会員のイチゴ生産ほ場及び作業場において、GAP(適正な農業の管理)の内部監査を行いました。JA北つくばいちご部会では、基礎GAPに取り組んでおり、GAPチェックリストの記入と年1回の現地監査を行っています。

今回は、ステップアップの試みとして、県第三者確認制度のチェックリストを参考に、GH農場評価員、JA職員、部会役員、普及センター職員が2戸の部会員のGAPの取組状況についての現地監査を行いました。現地監査により、GAPの重要性への理解は深まっている一方で、各生産工程におけるリスクの検討や各種記録の整備にはまだ課題があることが明確になりました。



現地監査の様子

今後も普及センターでは、部会員のチェックリストや現地監査で明確になった課題の解決、より良いイチゴづくりに向けた活動を支援していきます。

#### GAPとは…

農業生産の環境的、経済的及び社会的な持続性に向けた取組。  
結果として、産地や農産物の質の向上と消費者や実需者の信頼に繋がります。



### 真壁高校先進農業研修会を開催！



12月11日、県内の研究機関及び先進農家において先進農業研修会を開催し、管内の県立真壁高等学校農業科2年生22名が参加しました。この研修は、同校農業科2年生を対象に就農意欲を向上させることを目的に毎年、普及センターが開催しています。

研修会では、笠間市にある県の生物工学研究所及び園芸研究所の見学を行い、担当者から現在育成中のイチゴの新品種やイチゴの育苗管理の方法について説明を受けました。生徒たちは、普段は見ることのない、県の試験研究の最前線を見学することができ、貴重な経験となったようでした。また、県オリジナル品種「いばらキッス」の耐病性や、イチゴの果形と糖度の関係などについて活発な質問が飛び、日頃の学習での疑問を解決することができました。



生物工学研究所見学の様子



保田氏のハウス見学の様子

続いて小美玉市へ移動し、カーネーション、プリンセチア等の鉢物を生産している保田健一氏のハウスを視察しました。保田氏は、鉄骨ハウスにおいて鉢物を周年で生産し、その生産量は年間で13万鉢にも上ります。工夫を凝らし、狭い面積でも高い売り上げをあげる保田氏の農業経営を目の当たりにすることで、就農意欲が向上した様子でした。

普及センターでは、今後も真壁高校と連携しながら、生徒の就農意欲を喚起していきます。



# 農業学園 農業簿記入門講座を開催！！

12月18日、農業学園第8回講座「農業簿記入門講座」を開催し、受講生16名が参加しました。講座では、経営戦略を考える手段となるSWOT分析や経営上の課題解決の流れであるPDCAサイクル、さらに経営管理の際に重要となる複式簿記の基本知識を学びました。

受講生からは「自らの経営を見つめなおす機会になった」「将来は青色申告を行えるようにしたい」といった声が聞かれ、自身の今後の農業経営について考える有意義な講座となりました。



講座の様子

また、講座終了後には9名の受講生が参加して、第2回交流会を開催しました。就農して間もない農業者同士、農業の魅力や楽しさ、さらに日頃の農業経営の悩み等の話題で盛り上がり、交流を深めました。普及センターでは引き続き、受講者の経営に役立つ講座を開講し、受講生同士の交流の促進も図っていきます。



## 園芸用施設の雪害対策をご確認ください



冬も本番となりました。降雪による被害を出さないために、ハウスの雪害対策について、事前の点検をお願いいたします。

### 事前の対策

- 外張り被覆資材のたるみや破れは、雪の滑落を阻害するので、降雪前に補修してください。また、パイプジョイントや筋交いのはずれ等を点検し、ハウスバンドのねじれ・緩みを修正してください。
- 著しい降雪が予想される場合は、応急補強用の支柱や筋交い等を取りつけてください(図1・図2)。

### 降雪時の対策

- 屋根に積雪した場合、速やかに雪おろしを行い、被覆資材が雪でたるみ滑落困難になるのを防いでください。
- 散水による除雪・融雪は、雪の積雪を防ぐ目的で積雪前から行う場合は有効ですが、積雪後に行くと水を含んだ雪が重くなり、施設の倒壊を引き起こす可能性が高まるため、実施しないでください。
- 暖房機等が設置されている場合は、内部被覆(二重カーテン)を開放した上で、可能な範囲で施設内の温度を高め、屋根雪の滑落を促進してください。
- 暖房機等が設置されていない場合は、施設の気密性を高め内部被覆(二重カーテン)を開放し、地熱の放射により室温を上昇させることで、屋根雪の滑落を促進してください。

対策の詳細は、茨城県農業総合センターHPの技術対策ページに雪害対策が掲載されていますので、参考にしてください。

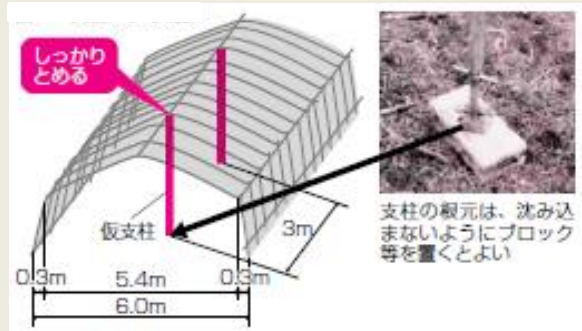


図1 支柱による補強

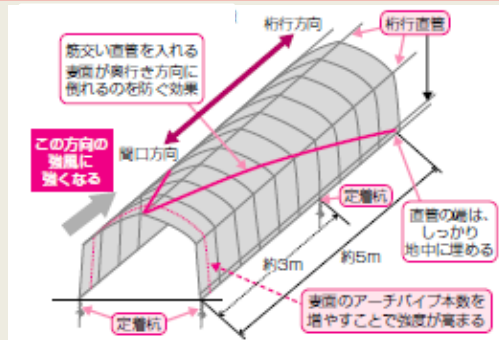


図2 筋交い直管による補強

## 普及員のひとりごと ～高木嘉明～

当普及センター4年目になりました。筑西市担当ですが、茨城の農業を背負っているマツシヴな生産活動に対して、未だに日々圧倒されつつ、あわせて誇らしく感じております。まだまだ発生が続いているイネ縞葉枯病が、終息してくれることを願っています。

## 編集後記

今年は年号が変わるなど、「変化の年」になりそうです。良い「変化」を起こせるように、心機一転、頑張りましょう。 今瀬

皆さまからのご意見・情報をお待ちしております。